NPO インターンシップラボシンポジウム 2021

報告書

コーディネーション×ICTで NPOインターンシップ プログラムを加速する!

主催 NPO インターンシップラボシンポジウム 2021 実行委員会

助成 cybozu サイボウズ株式会社

NPO インターンシップラボ　シンポジウム 2021　開催概要

オンライン開催（Zoom）

日時：9 月 20 日（日）13:00 ～ 17:00

13:00-14:20	オープニングセッション 「コーディネーション× ICT でプログラムを加速する!」
14:30-15:45	分科会 < 選択参加 >
	①「学生に聞く!インターン徹底解剖～あなたはどっち!?企業 orNPO ～」
	②「オンラインのインターンシップでも仲良くなれる!～学生と団体のアイスブレイクを ICT 化するには～」
15:55-17:00	クロージング & 交流会

はじめに

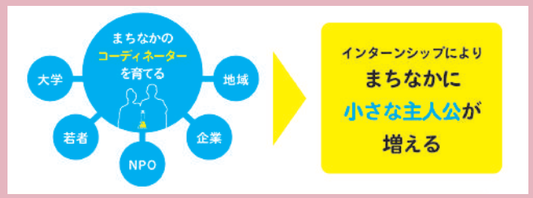
私たち NPO インターンシップラボは、各地域で NPO インターンシッププログラムを運営する中間支援組織のコーディネーターが集まり、2018 年からスタートしました。シンポジウムや勉強会などの情報発信・交流の機会のほか、事例調査等の活動を通じて、NPO インターンシップの意義や価値について議論しています。

本シンポジウムはその一環として、毎年開催をしています。今年の実行委員会では、東京、神奈川、千葉、福島のメンバーを中心に新メンバーもむかえ、さらにはサイボウズ株式会社さんもご支援くださり、準備を進めてきました。
そして、今年のテーマを「コーディネーション× ICT でプログラムを加速する」と決めました。やはりこの 1 年間、新型コロナウィルスの影響で NPO インターンシップの多くがオンライン開催となり、できることも増えた反面、交流やつながりづくりなどは対面とは違った工夫が必要になりました。シンポジウムではオンラインでのプログラム運営の工夫や課題を持ちより、with コロナ時代のコーディネーションについて皆さんと考えていければと思い、このテーマとしました。
シンポジウム当日はオープニングセッションでは学生と NPO をつなぐコーディネーションのオンライン化のコツについて、分科会では企業・NPO 双方のインターンシップ徹底解剖、オンラインでのアイスブレイク・学生と団体の関係構築を考えるといったテーマで開催し、交流会では ZOOM の機能を活かして参加者で大いに盛り上がりました。
今年も実行委員会からシンポジウムまで完全オンラインでの開催でしたので、一度も対面で会えない不安もありましたが、参加者の皆さん、実行委員の皆さんのコミュニケーション力の高さに助けられ、無事シンポジウムを開催することができました。
集まった各地のコーディネーターの皆さんとともに充実した議論ができたと思います。皆様、ありがとうございました。

本報告書はそのシンポジウムの記録をまとめたものです。NPO インターンシップをはじめ、若者と地域をつなぐ取り組みに関わる皆様の活動の参考となれば幸いです。

NPO インターンシップとは？

主に大学生・専門学生・高校生が NPO で一定期間インターンシップ（就業体験）をするプログラムです。運営主体や実施期間などは様々あります。本事業ではその中でも企業インターンシップのような就業目的ではなく、学生が地域や NPO を学び、社会参加するきっかけ作りとして行われているプログラムを対象としています。



各地域で行われている NPO インターンシップとは

学生がイベントを
一緒に企画したり

日常ではできない
体験をしたり

学生同士の横のつながりも
できるのがいいところ

子育て支援団体で学生が
イベントを通して子ども
と触れあったり

地域の多世代でベンチの
ペンキ塗り企画を実現したり

まちの小さな主人公ってどんな人？

NPO インターンシップラボ「全国 NPO インターンシップラボ事例集」より

生まれている効果

- NPOが活性化し、発展する
- 地域と若者がつながる
- 若者の経験値が高まる
- 主体的に動ける人が地域に増える
- 地域が活性化し、多様なつながりが活動に活きている
- 社会の課題解決が促進される

NPOインターンシップでまちなかに 小さな主人公が増える！

小さな主人公とは？

リーダーを育てる仕組みはいろいろありますが、リーダーはひとりだと孤立してしまいます。普段はあまり表に出ないけれど、NPOに参加することでそういうリーダーを支えて地域を盛り上げていける若者の存在が必要になります。「まだやりたいことがわからない」「自分に自信がない」という普通の若者が地域に出ることで、そのような、いわゆる「フォロワー層」になるのではないかと考えています。

1）リーダーを支えるフォロワー的存在である小さな主人公も大事

「リーダー的な主人公」
NPO・社会的企業等の立場で
新たな道を切り拓く

「小さな主人公」
普段はあまり表には
出ないけれど、NPOや
地域の活動に関心・共感を寄せる

2）そうした小さな主人公はNPOインターンシップのような体験型プログラムで育まれる

やりたいことが
まだわからない…

自分のできるところから
もうちょっと何かやってみたいな！

※本来、すべての人はその方の人生における主人公ですし、主人公に大きいも小さいもないところですが、今回はあえて新たな動きで社会を切り拓かれ、時に表舞台に立つこともあるリーダー的な主人公との対比で「小さな主人公」という表現を用いています。

今回のシンポジウムでは、
NPOインターンシップはもちろん
いろいろな仕組みで若者が地域で活躍している
事例をもとに、5日名の参加者と一緒に
ICT×NPOインターンシップの可能性について
じっくり語り合いました！

クロージング・交流会に参加された皆さんとの集合写真

オープニングセッション
「コーディネーション×ICTでプログラムを加速する！」

プログラムや企画のオンライン化が求められていく中で、学生やNPOをつなぐコーディネーションをICT化するには
どんなコツが必要なのか、実践者の皆さんに成功事例や今後の課題をお聞きします。

ねらい

コロナ禍になり、これまでのような対面での活動が難しくなった。昨年1年で活動をオンライン化した人はたくさんいると思うが、会議等の情報交換はできても交流などは難しく今までと違った工夫が必要である。学生×NPOのコーディネーションの現場はどうなっているのか。活動の第一人者に工夫や課題点をうかがった。

進行　NPO法人 CRファクトリー 代表理事　呉 哲煥氏

ゲスト　公益財団法人 SOMPO環境財団　瀬川 敬太氏

ゲスト　サイボウズ株式会社　渡辺 清美氏

はじめに－コロナ禍でのオンライン導入について（呉さんより）

コロナ禍がNPOに与えた影響は大きく、リアルのイベント・場づくり・交流を主活動とする多くの活動がものすごくやりづらい状況になりました。こうしたオンライン時代の中で大切なことは「無意識に共有・担保されていたものに目を向け、今まで以上に意図的に作ること」。具体的には前提や背景のすりあわせ、関係性をあたためること、気持ち･弱さを共有することなどが挙げられます。オンラインでは見えにくい部分が多く、意識的に共有を行うことが大事です。工夫点としては、大人数で長時間の会合よりも、少人数で短時間の会合を複数回設けることや1対1の個別セッションを実施することなどが有効だと思われます。今後も不透明な状況ではあるが、Withコロナ時代は感染対策の徹底した上で信頼感・安心感のあるリアルな場をどう作るのか、また、活動によってはオンラインが適しているもの・リアルが適しているものと使い分けてリアルとオンラインのハイブリッド（併用）運営をめざすのが良いのではないでしょうか。

事例① －SOMPO環境財団　CSOラーニング制度（瀬川さんより）

同制度は、大学生・大学院生が環境分野のNPO・NGOで8か月間長期インターンシップできる取り組みで、2001年より20年以上で1,100人以上を派遣してきた。2020年度はコロナ禍での運営になり、事務局でも悩みつつ、受け入れ団体はテレワーク可能な団体に限定し、定例会はオンライン開催するなど感染対策を徹底してプログラムを作り替え、実施しました。2021年度になり、コロナ禍が収まらない中で「どうせやるなら前向きなICT化を！」と考え、プログラムのICT化を工夫しています。一つは集合形式の説明会のオンライン化。録画の配信もしたところ、対面開催の時よりも多くの参加学生に視聴してもらうことができました。また、団体紹介では動画を用いることで、動画をみて団体の雰囲気が知れたというコメントが集まり、応募の偏りも解消できました。運営面ではオンライン開催の定例会にて、アイスブレイクの導入、テーマディスカッション、雑談タイムの試みを行い参加学生の参加を活発にすることに成功。オンライン合宿にも取り組み、オンラインではあるが程よい疲労感を得られ、学生の満足感も高めることができました。一方で、参加学生同士の仲間作りが進まないことや、テレワークが多く活動の様子が見えづらくなる課題もあります。オフラインと比べ、共有できる部分が限られるので、フォローアップが行き届きにくい点は今後解消していきたい部分でもあります。

事例② －サイボウズ株式会社（渡辺さんより）

サイボウズ株式会社はグループウェア※1やチームワークのメソッドを提供し「チームワークあふれる社会を創る」を目指しています（公明正大であることを重んじ「アホはいいけど、ウソは駄目」という言葉が浸透しているほど！）寝坊の報告もされるなど、心理的安全性も高めの社風です。サイボウズの情報共有ツールは多様な非営利チームにも活用されており、NPOや大学関係者からも好評の声を頂いています。プライバシーに配慮しつつ情報を共有し、情報格差のない組織を作ることにグループウェアは役立ちます。サイボウズもコロナ下でほとんどの人が出社しない状況になりました。口頭の会話の代わりに、「キントーン※2」でのこまめなコメントが増えています。オンラインが基本となる中では、電話やビデオ会議のように同じ時間に限られた人とやり取りする「同期」のツールと「いつでも」「誰とでも」「何にでも」アクセスできる「非同期」なツールを組み合わせるのがポイントではないでしょうか。サイボウズでもインターンを受け入れていますが、「キントーン」のインターン用のチャットでは分からないことを気軽に質問、励ましができるようになっています（＝「非同期」のコミュニケーション）。受け入れる側のノウハウも蓄積し、引継ぎや改善がしやすくなっていることも記録が残るオンライン化のメリットです。現物（人やモノ）を触るなどリアルにしかできないこともあれば、保存する･公開する･検索するなど、バーチャルにしかできないこともあります。また、雑談などどちらでもできることもあります。これらを整理し、使い分けることが今後も大事ではないでしょうか。デジタル化にあわせてニューノーマルなやり方を模索していきたいです。

パネルトーク（チャット機能を活用！）

Question
インターンのオンライン化にかなり舵を切ったように思います。どんなメリットを感じたのでしょうか？

Answer：瀬川さん

学生のインターンシップにかける想いがより強くなったように感じます。コロナ禍で大学での活動やアルバイトがしづらくなる中でインターンの比重が高まったこともあるし、Zoomを使っていても全員ビデオをオンにしてくれたり、例年1～2行が多かったアンケートも長文回答が増えるなど、熱量を感じます。「オンライン＝熱量が下がる」と思われるかもしれませんが、そんなことはなかったですね。また、説明会や面接は今後もオンラインで続けていきたいと思っています。オンラインになって九州からの参加者もいました。「参加してみようかな」というハードルを下げることにもオンライン化は役立つのではないでしょうか。

Question
オンラインでも関係を深められるのでしょうか？

Answer：渡辺さん

プログラム化されたものだけでなく、ある程度自由に・主体的に関われる場があるとよいと思います。ゲーム性があったり、趣味のこと等、その人の個性を出せる・活かせる環境づくりがあるとよいのではないでしょうか。

分科会を振り返って

本企画のテーマは「コーディネーション×ICTでプログラムを加速する」ということでしたが、オンラインでも工夫を重ねることで、関係性構築からプログラム運営まで様々な活動ができるとわかりました。「コロナだから仕方ない」ではなく、知恵を絞ることで新たな参加者の獲得や団体と学生の関係づくりなど、可能性が広がることも見えてきました。既に様々な団体がチャレンジしているので、そうした事例を集めることで、まさに「プログラムを加速させる」ことができる機会になるのではないかと感じました。

実行委員：高城

※1「グループウェア」…企業など組織内のコンピュータネットワークを活用した情報共有のためのアプリケーションソフトウェア
※2「キントーン」…サイボウズ株式会社の提供するグループウェアソフト。顧客管理・日報やプロジェクト管理・受発注管理・コミュニケーションまで、あらゆる用途に使えるツール。

分科会①「学生に聞く！インターン徹底解剖 ～あなたはどっち！？企業 orNPO ～」

立教大学が実践する社会の中で“学ぶ”ことを目的に「正課インターンシッププログラム」の題材に、インターンシップ先は企業だけなのか？ NPO はどうなのか？相互の強みや違い、特性などを徹底解剖！分科会が終わった時、あなたはどっちのインターンシップを推しますか？

ねらい

大学の正課科目としてインターンシップを実施している立教大学コミュニティ福祉学部。企業や NPO 担当の先生、コーディネーターさん、プログラム経験者の方、それぞれの視点からインターンシップの魅力を伺いました。

進行
町田市地域活動
サポートオフィス
橋本 空氏

進行
横浜市六角橋
地域ケアプラザ
原島 隆行氏

ゲスト
立教大学
コミュニティ福祉学部
スポーツウエルネス学科　教授
石渡 貴之氏

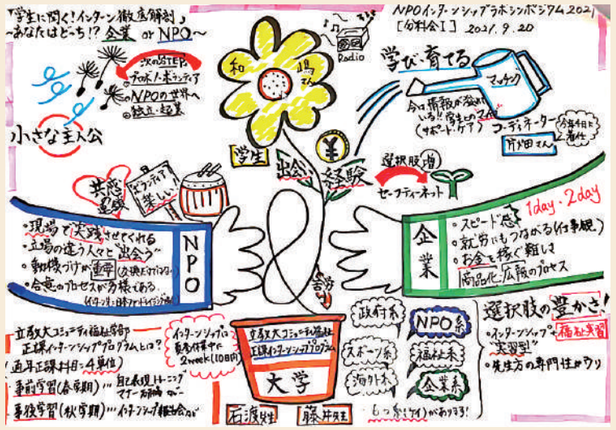
ゲスト
立教大学
コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科
教授
藤井 敦史氏

ゲスト
立教大学
コミュニティ福祉学部
教育研究コーディネーター
片畑 智子氏

ゲスト
立教大学
コミュニティ福祉学部卒業生
プログラム体験者
和嶋 美莉奈氏

立教大学コミュニティ福祉学部「正課インターンシッププログラム」とは？

2008 年度よりスタートし、これまでの履修学生は 600 名以上にもなるプログラム。学生時代に実社会を体験することにより、自己の進むべき道と能力とに目覚め、より豊かに学び行動できる人間に成長する助けとなることを目的として行っています。同学部各学科の 3 年次生以上が履修でき、通年の正課科目として 4 単位取得が可能です。実習は原則として夏季休業中の 10 日間実施。春学期には事前学習、秋学期には事後学習を行っています。



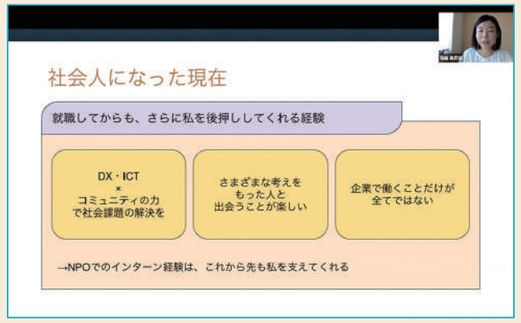
↑当日のグラフィックレコーディング

プログラムの魅力！

このプログラムの魅力の 1 つは、学生が 6 つの分野（企業系・NPO 系・福祉系・政府系・海外系・スポーツ系）から実習先を選べるというところです。「コミュニティ福祉学部に所属している多様な教員のコネクションを活かして、さまざまな分野でのインターンシップが実現できています」と石渡先生、藤井先生。「自分の知っている先生が関わっている組織での実習は、学生にとって安心できる環境だと思います。」と話すのはコーディネーターの片畑さん。特に今年度は感染症拡大により受け入れが難しいと判断する組織も多い中、「採用目的ではなく、次世代を担う若者をともに育てていくという気持ちを持って受け入れてくださった組織が多かったことがとても嬉しい」と話していたことが印象的でした。

学生はどう感じている？

「インターンシップに参加しよう！と決めた時に、多様な分野が用意されていたことは魅力の 1 つでした」と話すのは、本プログラムの経験者で、ＮＰＯで実習したのち企業に就職した和嶋さん。事前・事後学習の中で、実習先の組織や社会背景について調べた情報を他の実習先に行く学生とシェアする時間が用意されているそうです。自分が参加した分野だけでなく、3 倍・4 倍もの気づきや学びが得られるのですね。



学生にとってインターンシップは、実践的な学びを得られるといった短期的な成果もあれば、「こういう働き方をしている人がいるんだ」「こういう人生もあるんだ」と学生の将来や価値観に影響を与えるといった長期的な成果もあります。そのためにも学生にとって「企業だけ」、「NPO だけ」の経験ではなく、豊かな選択肢があることが大切です。その点についてゲストの方それぞれの視点で、どう感じているかを伺ってみました。

藤井先生：ＮＰＯのマネジメントは参加や協力に対する動機付けが多様にあるという点で、一般的な企業のマネジメントより難しい場合が多いということは、普段から学生にも伝えています。金銭というインセンティブだけではなく、協力・共感を生み出す力は企業や行政の職場でも活きていくと思います。職種や立場を越えた協働を生み出していける人材が増えていくといいですね。

石渡先生：最近の企業インターンシップは 1DAY・2DAY のものが多いですよね。どうしても短い期間だと企業のいいところしか見えない。10 日間実習に行くことによって、有名な大企業でもデスクワークや事務作業が多いのだという本当のところを学べると思います。重要なのは行ってみて自分にあったのを見つけられるかどうかということ。お金をもらうためにはどんな努力や時間が必要かを学ぶ経験は貴重ですよね。

インターンシップは社会に出る準備！

和嶋さん：私自身は企業と NPO どちらのインターンシップにも参加したうえで企業への就職を選び、社会人になって約半年経ちました。どちらを選んだとしても両者の考え方や要素を持っていたほうが強いだろうなというのは肌で感じています。

片畑さん：前職で学生が就職に対してネガティブなイメージを持っていることが分かり、驚いたことがあります。自分の想像と違う職場はいっぱいあると思いますが、インターンシップを通して、色々な職場、人、働き方があることを知っておくことで、自分の判断基準ができてくるのではないかと思っています。学部として社会に出ていく準備を応援していく仕組みは大切だと思うし、今後も広がっていってほしいです。

本分科会のテーマは「あなたはどっち！？企業 or NPO」でしたが、きっと“or”ではなく企業“&”NPO。豊かな選択肢があることで、学生たちの多様な学びにつながることが分かりました。さらに長期的な視点で見ると、インターンシップを通して仕事や働き方の選択肢は 1 つではないということを知ることで、将来的にも企業・NPO の両者で活躍する人材が育っていくだろうという可能性を感じられる分科会になりました。

分科会を振り返って

「同じインターンシップでも NPO と企業の違いは何だろう」という関心からこの分科会の検討が始まったものの、同じ状況でないと比較が難しいよねと話が止まっていました。
そんな時に情報を得た今回の立教大のプログラムは、そういう意味で同じ土俵の上で学生が多様な選択肢を体験できるまさにうってつけの内容でした。候補先の団体に大学のお墨付きがある安心感が下支えになっているので、将来的には大学から地域に広げて、地域の中で候補先を保障するのもありかもしれないと思いました。

実行委員：市川

分科会②「オンラインのインターンシップでも仲良くなれる！ ～学生と団体のアイスブレイクをICT化するには～」

コロナ禍により、参加先でお互いに初めて顔を合わせたり、最後までオンラインの画面越しにやりとりをしたりするインターンシップのカタチも増えてきました。この分科会では、そんなICT化の波を活用して学生・団体との関係性作りに取り組んできた事例をもとに、受入れ団体・学生と仲良くなるための機会づくりやアイスブレイクについて参加者の皆さんと考えていきます！

ねらい

コロナ禍により、インターンシップのコーディネーター（以下、実践者）は「ICT」を導入しトライアンドエラーを繰り返しながらプログラムを進めています。その中で数多くの失敗や課題を抱えその対応策・改善策に日々頭を悩ませている場面も多いと思います（実践者は孤独！？）。各実践者がもつICT化に伴う課題からその解決策までをグループディスカッションを通して共有し、最終的には各団体に持ち帰れるような、題して『世界で一つだけのICT活用事例集（仮題）』を1時間15分という短い時間内で制作してしまおうという無謀なミッションにチャレンジしました。以下、その奮闘記です。

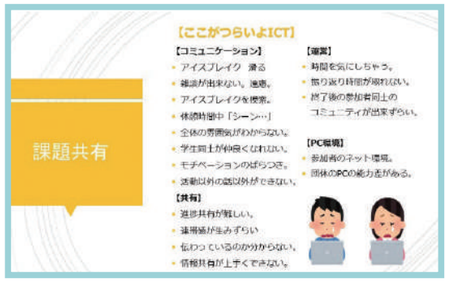
進行　（公社）相模原・町田大学地域コンソーシアム　江藤 佑氏

ゲスト　ソーシャルメディエーター協会　影山 貴大氏

ゲスト　まつど市民活動サポートセンター　大石 果菜氏

フェーズ1 「ここがつらいよ ICT」

まずは、学生プログラムのICT化に伴う課題をグループワークで共有し、3つに分類しました。



参加者の環境の課題
- オンライン環境に差がある
- PCスキルの差が生まれてしまう

情報共有・運営の課題
- 伝わっているのかわからない
- タイムキーピングが難しい

コミュニケーションの課題
- 参加者同士仲良くなれない
- 良いアイスブレイクがない

参加者各々から様々な課題が発表・共有されたこの時点で、聞いている方も大きく頷く人多数。。やはりみなさん課題は少なからず共通してるんですね。。

特に多かったのは意思疎通に関すること！

フェーズ2 「こんなツールもおススメ！」事例報告タイム

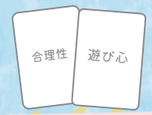
オンライン活動におけるコミュニケーションの促進にICTツールを活用した事例を伺いました。
どの実践例も、実際に活用されているのでわかりやすく実践に移しやすい事例でした！

ゲスト　地域団体へりぽーと／神奈川大学人間科学部人間科学科　4年　中島 さえ氏

＼自団体で作成！／
コミュニケーションカード

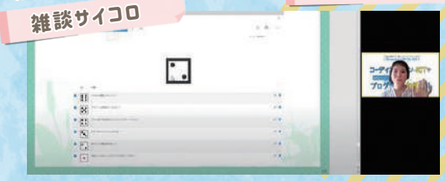
「話し合いが進む」　「雰囲気が和む」　「オンラインでの使用は効果がありそう！」

ゲスト　サイボウズ株式会社　渡辺 清美氏



バリューカード（wevox）

＼自社の社員が作成！／
雑談サイコロ



「お題決めに使える！」　「何のテーマが出るかわからないワクワク感」

フェーズ3 「こんな風に取り組んでます！」参加者グループディスカッション

「各実践者が活用（体験）している解決策や工夫」をグループワークで発表・共有しました。
どのような事例が飛びだすかドキドキの15分間のグループワーク！

なんと25個にも及ぶ具体的な解決策を共有し、すぐにでも活用できるネタが集まりました！やはり実際に実践者が活用されている解決策は具体性が増します！
ぜひこの実践者の皆さんの血と涙が結集した『世界で一つだけのICT活用事例集（仮題）』を各団体各地域で持ち帰ってもらい、ICT活用における課題解決の一助になればうれしいです。

↑同時進行でまとめたグラフィックレコード（本当に短時間で作成しました。凄いスキル。。）

「アイスブレイクが滑る」はわかるな～。
しかも滑った後のフォローがオンライン
上だと難しいんですよね…。

こんな工夫をしています！

共通のものを持つ（おそろいのTシャツを事前に揃えて一体感を出す）／世間話をする／「こうだよね？」と皆で確認しながら進める／日頃の活動の様子を事前に見られるようにする（安心して参加できる場づくり）／オンライン上でも活動の話をする場と自由に話ができる場を分ける／OBとの交流でモチベーションUP！／部屋にあるモノしりとり／自己紹介の工夫

おすすめのICTツール

GoogleDriveなどの活用（他の人の意見を見れるようにする・後からデータを書き込めるようにする）/チャットの活用（今日の朝ごはん）/LINEのオープンチャット（アドレスだけ送れば繋がれる）/キントーン（話が流れない・事業ごとにデータを整理できる）/ラウンジ（Zoomで使える、早押しクイズができるウェブサービス）/スライドゥ（匿名で質問やコメントを集められるウェブサービス）

分科会を振り返って

今回の分科会で共有できた各解決ネタはすぐに実践・応用が出来るモノばかりで、
改めて各実践者がそれぞれ抱える課題に対して真剣に悩み苦しみもがきながら具体的な改善に向けて試行しているその「背景」と「情熱」を感じることが出来ました。
実践者は現場の責任者として課題を抱え込み孤独になりがちですが、そう、私たちは一人ではありません。全国には同じような悩みを抱え戦っている実践者が多くいます。
この分科会を通して様々なICT活用ネタを得るというミッションも達成しましたが、
それ以上に志を同じくするプログラムの実践者が「仲間」として支え合うことの大切さと喜びを学べた1時間15分でした。参加者の皆さま、ご協力いただきありがとうございました！

実行委員：江藤

クロージング・交流会

ねらい

クロージングでは、前半は各分科会での内容をシェアし、後半は参加者の皆さんとの交流会を行いました。
実行委員会メンバーと参加者の皆さんとの中でどんな話が出てきたかを中心にご紹介したいと思います。

企画・進行

町田市地域活動
サポートオフィス
橋本 空氏

横浜市六角橋
地域ケアプラザ
原島 隆行氏

（公社）相模原・町田
大学地域コンソーシアム
江藤 佑氏

ソーシャル
メディエーター協会
影山 貴大氏

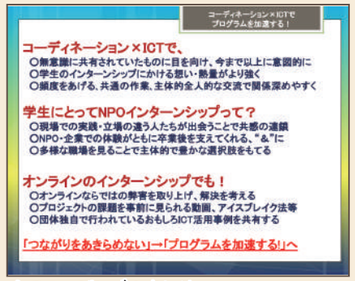
Concept
「全員で場づくりをする！」
Zoom の投票機能を使い、2 回のブレイクアウトルームのトークテーマと人数を参加者全員で決めて進行しました！

「何のテーマで話したい?」

- ●今日の一押し！（心に残ったこと）
- ●皆さまの日頃の活動を教えて
- ●も～っと ICT の活用について話したい
- ●日頃の現場では言えない私の困りごと…
- ●インターンバスケット（なんでもあり）

「何人で話したい?」

＜グループ人数＞
- ●（ドキドキの）2 人組
- ●（ワクワクの）4 人組
- ●（ワイワイしたい）6 人組



↑クロージングのまとめ

セッション①

「皆さまの日頃の活動を教えて」　（ワクワクの）4 人組!

全国で活動している中間支援や NPO の方、学生さんなどのお話をそれぞれのルームで伺うことができました。

セッション②

「今日の一押し！（心に残ったこと）」　5人組!

4 人組と 6 人組の表が同数になったため、急ぎょ設定！

- ◆ ICT の活用と一口に言ってもいろんな方法があることが分かった。これを機にもっと知っていきたいと思った。
- ◆ 自分に近い年齢の登壇者が「私の少しの行動でも社会を変えられると感じた」と言っていたことが印象的だった。
- ◆ NPO インターンシップは NPO 人材の裾野を広げるだけに限らず、いつかプロボノなどで NPO の世界に戻ってくる可能性もあるなど、NPO インターンシップの経験が学生にとって価値のあることだということを改めて実感した。
- ◆ オンラインイベントだったおかげで普段なかなか会えない人たちと会う良い機会になった。実際に学生さんの生の声が聴けるのはとても勉強になった。

分科会を振り返って

オンライン開催となる 2 度目のシンポジウム。
実行委員の間では、交流会は「参加者同士の交流の機会」を創るのがマスト！と考えが一致していました。打ち合わせで「投票機能を使ってブレイクアウトルームを参加者みんなで作る」という案が出た時には、全員が「神～～～～！コレ～～～」と叫んだことを覚えています！今回のシンポジウム全体テーマである"ＩＣＴ"や"多世代"などは取り入れつつ、会場全体で場をつくる「一体感」と「参画感」を演出できました。
是非、皆さまの職場やフィールドでこのワーク使ってみてくださいね♥

実行委員：原島

コラム ー コロナ禍での ICT 利活用について

NPO インターンシップラボ実行委員／
サイボウズ株式会社
渡辺 清美氏

「分報」
「全社横断ザツダン」
「日本語ざつだんランチ」

コロナ禍で皆さんは ICT をどのように活用していますか？
サイボウズという IT 企業の社員である私は、ここ 2 年はオフィスに出社せずテレワークをしています。非営利の活動や学習の場もオンライン化し、各地に仲間が広がりました。途中、手術や抗がん剤治療で体力が落ちたときも安全に仕事ができとても助かりました。家族とすごす時間も増えています。

このように ICT は体力的な負担や移動時間を減らし、距離を超えたつながりをつくれるので子育てや障がい、病気など事情のある方の働きやすさ、学びやすさにつながります。
一方で通勤通学や活動の合間にあった偶発的な出会いや自由な語らいは減り、メンタル不調をおこす方もいます。
テレワークは 30 代以降の人の幸福度をあげるものの、20 代については下げるという調査結果もあります。
（出所：パーソル総合研究所・慶応義塾大学「はたらく人の幸せに関する調査【続報版】」）
親密性を構築する段階にある青年期、NPO インターンシップなど新しい関係性をはじまる際には自由な語らいで信頼関係を紡ぐことは大切なことです。チームで ICT の利活用をする際に、どんな工夫ができるのか少し例をご紹介します。

20 年以上、グループウェアを使っているサイボウズでは若手を中心にしたメンタルケアの問題がコロナ禍の課題となりました。様々な対策がとられるなか ICT で交流する動きが活発化しました。ほぼ全員でテレワークをしていたので書き込み量は、コロナ流行前の 5 倍に増えます。
業務の進捗や仕事以外の状況や気持ちも共有する「分報」や部門を超えた「ザツダン」、各々の知識や関心、文化的な背景や障がい特性についての「勉強会」の機会が増えました。
仕事だけではなく、私生活のことも書き込む割合が増えています。「全社横断ザツダン」「日本語ざつだんランチ」といった海外メンバー含む自由参加の出会いの場も用意されるようになりました。
また物理的な人数の制限がないので希望すれば多くの人が経営会議に参加ができ、出席しなくても議題について助言できるようになりました。多様なメンバーの視点をとりいれた経営が可能となっていきます。

ラボの活動で全国の学びあいがさらに広がることを応援しています。

NPO インターンシップも学生、NPO, 中間支援団体が様々な視点をもちより学び合いができる機会です。若い方や学生さんが意見のいいやすい仕組みを実現していくとさらに発展していくのではないでしょうか。

シンポジウムで出たICTツールを使ってみた

今回のシンポジウムでもたくさん登場したICTツール。コロナ前からすっかりお馴染みのものから「初めて聞いた！」というものまで多種多様なツールのうち、実行委員が実際に使ってみたツールを本音で紹介します！

オンライン会議ツール
…離れた人とも会議ができる！

コロナ禍で一気に普及した「オンライン会議ツール」。
「何使ってる？」と実行委員内で聞いたところ、意外とZoom一強！？な様子がうかがえました。無料でも会議に使える機能が豊富なことが人気の一因なのかも？

Zoom
今回のシンポジウムでも活躍！

- 画面共有、録画、ブレイクアウトルーム、投票など、オンラインでやりたいことはあらかたできる
- いまだに無料アカウントです
- 録画すれば動画になるなど別用途でも使える！
- 学生のほとんどが活用できるので、気軽に使いやすい
- 周りの人も慣れてきた方が多く、安心して使えるツールの１つです！

Zoom以外は使っていない人もいれば、「組織の決まりでZoomは主催者として使えない…」という人も。同じオンライン会議ツールとはいえ、何を使うかは相手にも事前に確認することがおススメ！

google meet

- この前初めて使いました。

microsoft teams

- 大学の授業で使った。zoomより自由度は少し落ちる印象。操作性が少し複雑かな

グループウェアツール
…組織内の情報共有に使える！

リアルで会えない期間が増えることで、オンライン上でコミュニケーションや資料共有を行うための「グループウェアツール」の需要も高まりました。今回の実行委員は「キントーン」を使って、データ共有もチャットも一括管理していました！

キントーン

- データを入れるフォーム設計の自由度が高いのに、簡単に作れる！
- CMでお馴染み！データ共有とチャットが同時にできる
- インターン受け入れ先のＮＰＯでも導入したと聞きました。テレワーク時に学生とのやり取りに便利とのこと。
- 情報共有・蓄積に便利（迷わなくなる）
- 基本データのやり取りやチャット機能などプロジェクト内コミュニケーションをに必要なツールが集まっている

はじめは実行委員内でも使用に戸惑う場面もあった「キントーン」。使っていくうちに「こんなこともできる！」とわかっていく面白さもありました。

slack

- よくチェックする人同士でないとやりとりが効率的にならない印象があります。
- 結構使いやすいです。チャットによるコミュニケーションが主かなあ。情報を逃してしまい流れてしまうことも多々
- Ｐ型・Ｄ型・Ｔ型の色覚特性に合わせた着せ替えテーマがあることに驚きました。複数団体のワークスペースが１画面で管理できるのは便利。

サクッとやりとりができる「LINE」もまだまだ根強い人気がありそうです！

LINE オープンチャット

- やりとりが素早い！その場で返せる手軽さがある
- プロジェクト単位で使える。異世代グループでも意外と使いやすい
- ラフに連絡を取るならやはりLINE。簡単なグループ通話ならLINEで済ますことも多々

ワークショップツール
…対面のときのようなワークができる！

ワークショップに使っているツールとしては、ふせんワークが簡単にできる「jambord」や「miro」、セミナーの時などに活躍する匿名の質問・投票フォームが作れる「スライドゥ」が人気でした。

スライドゥ

- 質問に投票ができる。たくさんの質問を優先順位順に整理するときに便利
- 匿名で質疑ができて便利
- Webexの拡張アプリで使用、クイズや投票で使えるか試行錯誤中（実戦未使用）

これ以外にも多様なワークショップツールがあるようです。「オンラインだけど、リアルみたいに●●をやりたいなぁ…」と思ったときにはぜひ色々調べてみては！？

google jamboard

- KJ法やブレストに最適！ホワイトボードとしても使える。
- 紙でのワークショップに近い使い方ができる！
- 同時編集できるのが楽しい。カラフルで見た目にもかわいい。使い方も簡単で、苦手な方でもなじみやすい。

miro

- グループワークに使いやすい印象。オンラインでもリアルっぽい作りで、デザインもかわいらしい。
- 英語表記だけど割と直感的に使える。デザインが可愛くてJambordより見やすい仕上がりになるのが良い。

その他おススメツール

商業イベントなどで使われていた「Peatix(申込管理サービス)」。NPOでも使われ始めています（無料イベントも使用可）。「Googleサービス」は、「スプレッドシート（Excel）」や「スライド（パワポ）」等がオンライン上でも使えることが人気の理由。複数人同時編集もできて、作業の効率化に役立つ！おすすめのツールの一つです◎

Google サービス

- さすがGoogle！
- みんなで資料が作成できる（１人への負担を減らせる）
- 写真など容量の大きいファイルのやり取りに
- Zoomとの併用の相性が抜群、使いやすいものが多く応用がききやすい
- 容量が他のサービスより大きい。ファイルをまとめておける場として重宝。

どちらもとにかく「便利！」という声が多数上がりました！「Google for nonprofit」というプログラムを活用すると、非営利団体向けに一部サービスが無料で利用できます。（※利用には審査が必要です）

peatix

- イベントの参加者管理といえばこれ。
- クレジットカード決済できるのが便利！
- 有料イベントでも参加費を集めやすい
- 使いやすい＆重宝しています！

↑イベントやセミナーの参加費をクレジットカード決裁できるのは利用者としても超便利…！

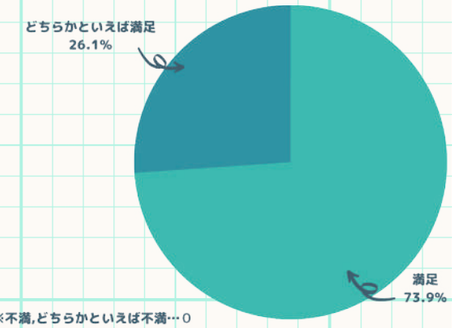
参加者アンケート結果
※一部抜粋

シンポジウム開催後に集計した参加者アンケートの内容です！

Q. 所属組織について
（N ＝実行委員・ゲストを除く 34 名）

学　生　　：11 名
NPO 団体　：9名
中間支援組織：14 名

オープニングトークセッションの満足度



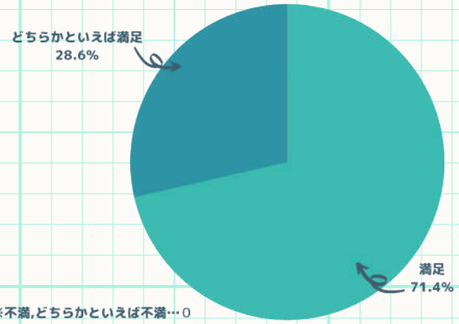
※不満,どちらかといえば不満…0

感想

◆先進的な企業さんでのオンラインの取り組みを聞く機会がなかったので、非常に発見の多い時間でした。ツールの紹介だけでなく、「そんなこともオンラインでできるんだ！可能性は無限なのだな」と前向きになれるお話でした。

◆ ICT を前向きに使うという姿勢が印象的でした。コミュニケーションで大事なことが手法だけでなくマインド的なものとしても学べました。

分科会1の満足度



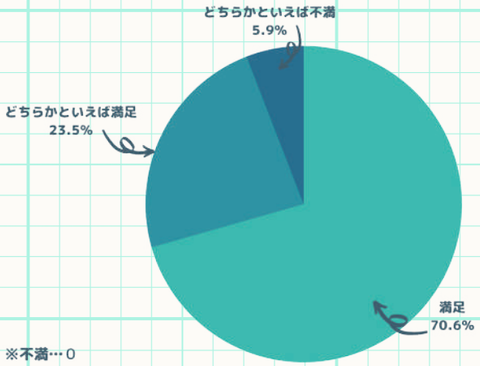
※不満,どちらかといえば不満…0

感想

◆学生時代に NPO インターンを経験することは本人はもちろん、企業、受入れ NPO にとってもとても意義があると感じた。ゲストの魅力、進行やグラレコが素晴らしく、非常に為になり、楽しい分科会だった。

◆ 立教は昔から少し特異だったけど、今も少し特異だなと思いました。いい意味で！！

分科会 2 の満足度



※不満…0

感想

◆今まで知らかったオンラインのツールを知れたので、自分たちの団体に共有したいと思います。ほかの団体の方とかかわることで今まで知らない新しい気づきをたくさん得ることができました。

◆ みなさんそれぞれに模索しながら活動されていて、その実践を通しての経験やスキル、知識のシェアができたので、お互いに発見があり良い時間を過ごせました。

シンポジウム全体の感想

オープニングのビデオオン / オフを使ったアイスブレイク楽しかったです。

沢山の積極的な学生さんが参加されていて、とても良い雰囲気の中プログラムが進行されていたのが印象的でした。イベント自体の雰囲気から、日頃のラボでの活動の充実度のようなものが伝わってきて、素敵だなと感じました。

新しい歴史を切り拓き始めるのは、歴史的にみても、若い世代の力です。 その力を最大限化させる社会のあり方を創るのが、実績がある世代の役割だと思いました。

投票機能を使ったシェアタイム楽しかったです！

学生さん、中間支援団体さん、大学の職員さん、NPO さん、様々な方と交流できてよかったです。

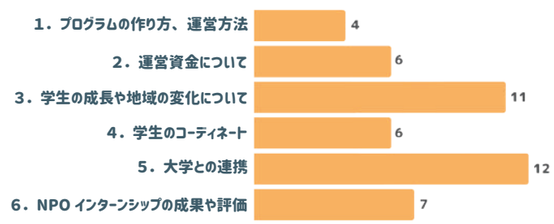
初めて参加させていただきました。どこまで理解出来るか不安でしたが、オンラインについて長所短所共がよくわかりました。また、自分の団体でインターンシップを導入することができるのか考えたこともないことを考えるきっかけとなり、自分の団体を考える新たな視点を頂きました。

学生と NPO が繋がるという機会はまだまだ少ないと思うので、もっと広まっていって欲しいなと思います！大学との連携についてももっと知れるといいなあと思いました。

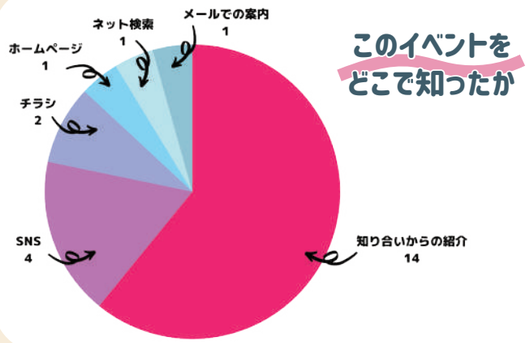
ICT というテーマで一体どんな内容になるのかなと思いましたが、逆に NPO インターンの変わらない本質が浮き彫りになったような印象です。今回も盛りだくさんの内容で、勉強になりました。

コロナでしょうがなくオンラインを取り入れているという考えがどうしても残ってしまっていましたが、本日皆さんのご意見拝聴し、コロナ後も適材適所見定めながら前向きに導入していきたいと思いました。

関心のあるテーマ



このイベントをどこで知ったか



おわりに

今回は「コーディネーション× ICT でプログラムを加速する！」というテーマでシンポジウムを行いました。オンラインでの開催は 2 年目となりましたが、全国各地からたくさんの方に参加いただき、今年も盛況でした。コロナ禍で活動の制限はされましたが、オンラインを駆使することでこれまで以上に活動の幅も広げることができることもわかりました。今後も工夫をして、各地での若者と NPO の活動を皆で盛り上げていきたいですね。

最後に、このシンポジウムはご支援いただいたサイボウズ株式会社の皆様をはじめ、登壇いただいた皆様、参加くださった皆様、広報にご協力いただいた皆様、そして NPO インターンシップラボの仲間のご協力があって開催できました。

本当にありがとうございました。（高城）

NPO インターンシップラボ シンポジウム 2021

NPO インターンシップラボ実行委員会　メンバー

市川徹（一般財団法人世田谷コミュニティ財団）
大石果菜（まつど市民活動サポートセンター）
熊谷紀良（東京ボランティア・市民活動センター）
野地理恵子（NPO 法人ふくしま NPO ネットワークセンター）
原島隆行（横浜市六角橋地域ケアプラザ）
高城芳之（NPO 法人アクションポート横浜）
江藤佑（公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム）
影山貴大（ソーシャルメディエーター協会）
瀬川敬太（公益財団法人 SOMPO 環境財団）
橋本空（町田市地域活動サポートオフィス）
渡辺清美（サイボウズ株式会社）

NPO インターンシップラボって？

地域と若者の出会いや双方の成長を促すことができる「NPO インターンシッププログラム」に着目し、
運営を担う中間支援組織が効果的なプログラムを展開していけるようにサポートしていきます。
これから NPO インターンシップを自分の地域で始めたいという方はぜひご連絡ください！

NPO インターンシップラボ
http://npointernship-lab.net/
https://www.facebook.com/npointernlabo/

NPO 法人アクションポート横浜
〒 231-0023　横浜市中区山下町 94 番地 横浜中華街パーキング共同組合内
TEL&FAX：045-662-4395　メール：info@actionport-yokohama.org
ホームページ：http://actionport-yokohama.org/

発行：2022 年 3 月　　企画・編集：瀬川敬太、高城芳之、橋本空　　デザイン：大石果菜
作成協力：NPO インターンシップラボメンバー、シンポジウム登壇者の皆様